

デジタル田園都市国家構想実現会議（第13回）

机上配布資料

若宮委員

「誰ひとり取り残されない、人に優しいデジタル改革」 のための「デジタル推進委員制度」への取り組みに関して

1. 今後の課題

講習受講後の高齢者のデジタルライフの定着化・日常化

「携帯ショップのスマホ教室」「地域に根差した支援」により「高齢者向けのデジタル・デビュー講習」が順調に拡大していることは大変喜ばしいことと思います。次なる課題は「如何にして導入講習等を受講した高齢者の生活の中にデジタルライフを定着させるか」にあると思います。

2. 解決策への、いくつかの提案

（1）デジタルライフが定着・日常化しにくい原因を掘り下げていくこと

高齢者は「操作手順をよく忘れる」「肝心のときにスマホが電池切れしている」などという話をよく聞きます。とかく、これを「高齢者の認知能力の低下」によるものと決めつけられがちですが必ずしもそればかりとは言い切れません。

多くのデジタル機器はハード面ソフト面ともすべて「若者のライフスタイル」を基準に設計されています。すなわち、モバイルは外出時に常

に携行し、夜間に充電するものというのが常識ですが、多くの高齢者は毎日外出しません。

自宅ではあまりスマホをいじりません。理由は

- ・テレビに比べて小さくて見にくい、使いにくい。
- ・メールやメッセージが送られてくることもほとんどないので見る

意味がない。(これは部分的には改善可能です) **添付画像 1 ご参照**

したがって、毎日充電しないので、いざという時に役立たない)

長期間、充電し続けたままで放置しているケースも見受けられる。

(2) 解決策として下記を提案します

高齢者がデジタルライフを日常的なものにするために「毎日使いたくなるような工夫」が必要です。例えば

① 地域で高齢者の Web 交流サイトを作り、高齢者が気楽に「情報発信」でき、仲間と交流できるようにする。 **添付画像 2 ご参照**

インターネットの活用で「情報を得る」ことも大切ですが「情報を発信すること」、「仲間と共有すること」も日常化には重要です。メンタル面での「孤独解消」にもつながります。

(上記については「デジタル活用推進員」に運営を担っていただく)

② 家族の協力を得る

先進諸外国では子供が親のデジタルライフを積極的にサポートしています。

家族の協力を得て LINE などに「家族」による「グループ」を作ってもらい、子世代・孫世代から「高齢者」の喜びそうな話題や画像

等をアップしてもらおう。操作手順などでの質問もここに書き込んでもらい、家族が空いている時間に回答を書き込む。(文字で記録してあれば、電話での質問と違い記録が残るので、何度も同じことを聞かなくて済む)

「安否確認」にも役立つ。**添付画像3ご参照**

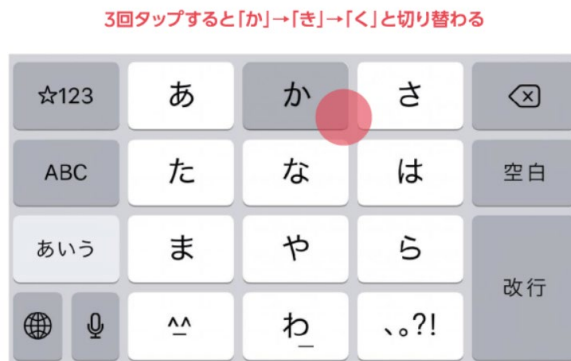
- ③ 「操作手順」の講習では得られなかった「デジタル改革の意義」「スマホ以外のテクノロジーの世界等を知ってもらう機会」を作る

共通の教材は中央官庁で制作する。更に、「自治体」の持つ高齢者の教育資源（生涯学習課・図書館・健康増進課・高齢者福祉課等）を有機的に総動員する。

- ④ 全国各地の自治体による「独自教材（動画など）」「地域の高齢者向け Web サイト」のコンテストを行う
優秀自治体を表彰するとともに全国で共有できるようにする。

以上

画像1・スマホの基本操作に「シニアバージョン」を加える



タッチペン

な	た	さ	か	あ
に	ち	し	き	い
ぬ	つ	す	く	う
ね	て	せ	け	え
の	と	そ	こ	お

わ	ら	や	ま	は
	り		み	ひ
	る	ゆ	む	ふ
ゝ	れ		め	へ
°	ろ	よ	も	ほ

若者は「手早く」が好き

画像 2 ・ 地域に交流サイトを作る

シニア投稿欄



今年はまだ咲いています

教えてスマホ



保健師です。



水分を
こまめに
取りましょう

高齢者こよみ

- 5/25 生涯学習教室
「ドローンに触ってみよう」
- 5/25 盆踊り練習会
- 5/28 街角バザール

ニュース

老人クラブが
子ども食堂へ
郷土料理を



画像3・ネット上に家族の交流サイトを作る（できるだけ文字で聞く）

- 文字で質問すれば
家族の誰かが教えてくれる
- 家族も、突然の電話で
仕事の邪魔をされない
- 記録が残るので同じことを
何べんも聞かなくて済む
- シニアの知恵を借りる
こともできる

